

1月号
No.03-574



杉並区立馬橋小学校

～開校70周年の年、思いを結んで～

新年にあたり謹んで初春のお慶びを申し上げます

令和4年が始まりました。本年も、馬橋小学校の教育活動が一層充実するよう取り組んでまいります。引き続き関係の皆様のご支援をよろしく願いいたします。

年の始めに、「新年の抱負」を考えた方も多くいらっしゃると思います。元気に始業式を迎えた各教室でも、「今年の目標は…」と話し合ったり、決意を目標カードにしたためたりする子供たちの姿がたくさん見られました。どの子の表情も希望に満ちています。

さて、新しい年が始まるこの時期、実は学校では、すでに次の年度の準備が始まっています。今年度を振り返り、よかったことはどんなことだろう、もっと改善できることはないだろうかと、教職員で話し合いを進めています。さらに、保護者や地域の皆様のお声を聴き、知恵をお借りしながら次年度の計画を立てていきます。子供たちの学校生活をよりよいものにしていくために、熟慮を重ね、充実を目指してまいります。

先日、ある行事の計画について話し合っていた時、感じたことがあります。コロナ禍が続く中、当初は「何ができるだろうか」「どのように縮小すればいいのか」と手探りだった会議の内容がずいぶん変わってきたな…と。「何を大切にしたいか」という本質を確かめ合う場面がぐっと増えました。そして、「そのためにはどんな方法が考えられるだろうか」と、情報や経験を基に多様なアイデアも出てきます。その中で繰り返し意見を交わすのが、「子供たちの思い」についてです。「この活動からはこういうことを感じ

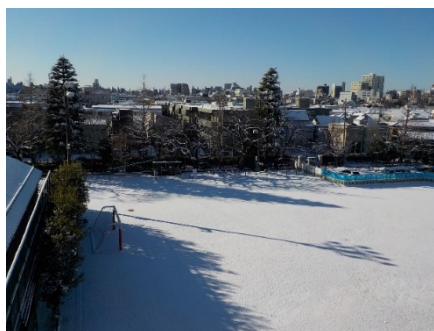
てほしい」「こういうふうにすれば、きっと子供たちの心に響くと思う」など、子供の思いに寄り添



いながら、慣習にとらわれることなくよりよいものを創造していこうと努める風景が多く見られるようになってきました。本質を見極める目や工夫が生まれていること、コロナ禍においても、確かな歩みがあると感じています。子供たちの生活の中にも、感謝の思いや他者に配慮する気持ちをもつ場面が増えていることを実感しています。

また、馬橋小の強みは地域や同窓生など多くの方々を支えられていることです。話し合いの中でその歴史にふれることも多々あり、子供たちや馬橋小を取り巻く多くの方々の「思い」が確かにそこにあることを強く感じます。

2022年、馬橋小は開校70周年を迎えます。本校にかかわる児童や卒業生、保護者、地域、新旧教職員が思いを重ね合い、絆を深める一年とすることができよう本年もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。「虎の子」や「虎は千里往って千里還る」といった言葉があるように、トラは自分の子を大事に守り、非常にかわいがって育てると言われています。共に、馬橋小の子供たちを慈しみ、愛情深く育てていく寅年のこの一年にすることができればと願っております。



新年早々に校庭一面を真っ白に包んだ雪。美しい光景でした。開校当初より見守る山桜も凛とたたずんでいました。

